



TITLE:

中央銀行の獨立性に就いて

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. 中央銀行の獨立性に就いて. 經濟論叢 1932, 35(4): 548-565

ISSUE DATE:

1932-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130233>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第四號

第三十五卷

昭和七年十月一日發行

論叢

賣上税に依る奢侈課税……………法學博士 神戸 正雄

利子歩合の理論……………文學博士 高田 保馬

ロングフィールドの價值論と分配論……………經濟學博士 堀 經夫

政治算術附地方算法に就きて……………法學博士 財部 靜治

所得に關する疑義……………經濟學博士 沙見 三郎

研究

中央銀行の獨立性に就いて……………經濟學士 松岡 孝兒

カルテル法への要望……………經濟學士 磯部 喜一

說苑

職業と營利……………經濟學士 岡崎 文規

アダム・スミスの經濟社會の本質に就て……………經濟學士 竹中 靖一

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁轉載）

研 究

中央銀行の獨立性に就いて

松 岡 孝 兒

一 序 言

この一小試論に於いて謂ふ中央銀行とは發券銀行としての中央銀行の意である。従つて此の場合發券銀行にして中央銀行ならざるものは勿論之を除外すると共に、中央銀行は専ら發券銀行たることを以て前提とする。此の意味に於いて正しく云へば、私の謂はゆる中央銀行とは中央發券銀行 Zentralnotenbank の意である。

私が以下検討せんとする問題は、かくの如き視角に樹つ世界大戰後に於ける中央銀行の獨立性についてである。

抑る中央銀行獨立性の原則なるものは、中央銀行の本質に關してその從屬性の原則に對立する

ものである。それは一方に於いて中央銀行が一般銀行としてたつ限り、之に於いてその獨立性が認められると共に、更に他方に於いて政府より與へられた一定特權による限り之に於いて其の監督を受けざるを得ざるに至れる必然的結果である。唯この獨立性の問題については、之と二律背反的に置かれた中央銀行從屬性の原則が屢々過度に主張されることにより、こゝに中央銀行獨立性の原則なるものが中央銀行の本質上少くも其の正常的狀態に於いて維持されるために對立的に主張されるに至る。此の意味に於いて中央銀行の獨立性と從屬性とは、中央銀行の本質上、その對國家的關係を通じて現はれる盾の兩面である。こゝに中央銀行の獨立性が重要視されなければならぬ所以の根本的關係が存在してゐる。

更に言葉を換へて言へば、中央銀行は一身にして謂はゆる政府信用と銀行信用とを具現せるものである。併し此等兩信用は實踐上に於いては必ずしも常に調和的に表現されない。其の中央銀行の存在する國の經濟社會狀態、惹いては政治社會狀態の如何によつて、或は政府信用或は銀行信用に對して特に拍車がかけられることは容易に理解されるところである。殊に資本主義制社會に於ける限り、屢々其の必然的傾向上自ら政府信用偏重の傾向に動かんとするの事情にあることは否むことができない¹⁾。そこに謂はゆる銀行信用重視の新動向が湧き且つ流れ、かくて中央銀行の獨立性なるものが論議される所以の淵が生ずる。

私は以下世界大戰後に於ける中央銀行の獨立性を論じ、轉じて資本主義制經濟組織に於ける中

1) 此の點に就いては拙稿：中央銀行の獨立性より見たる政府貸上金に就いて（經濟論叢第三十五卷第三號）参照

中央銀行獨立性の限界、其の消極的内容、積極的内容を取扱ひ、次いでこの點を補ふ目的を以て中央銀行に對する政府監督の内容に論及するであらう。

最後に斷つておく、以下茲に對象とする中央銀行の獨立性なるものは、中央銀行發展の全過程に於いて之を取扱はんとするものではない。問題は特に世界大戰を界として注目されるに至つた中央銀行のそれである。尤も行論上適宜大戰前にも論及することのあるべきことは亦やむを得ないが。

二 世界大戰後に於ける中央銀行獨立性の重要について

翻つて以上のべた主張をば最近の世界大戰に於ける事實について見やう。此間交戦各國はその戦費支辨のため、著しくその中央銀行の獨立性を犯しその從屬性を強要した²⁾。これによつて貨幣價值の安定は紊れ信用の統制は棄てられた。戦後此等交戦各國の金融的財政的復舊が、中央銀行を樞軸とする貨幣信用の統制を對象とする限りに於いて、こゝに中央銀行獨立性の原則がその復興スロオガンとして認識され主張されるに至つたことはまことに當然である。

かくして戦後に於ける國際諸會議、國際聯盟財政委員會、ドオズ委員會並に中央銀行の新設又は改造に參加せる専門家委員會等々の如き、皆この獨立性の原則の重要性を認めた。かの一九二〇年ブラッセルに於いて開かれた國際財政會議の決議が、「特に發券銀行はあらゆる政治的影響

2) Radouant: Les rapports de la Banque de France et de l'Etat; Combat: Les finances publiques et la guerre; Jéze: Les rapports de la Banque de France et de l'Etat pendant les années 1915-16 (Revue de science et de législation financière, avril-juin 1918); Lachapelle: La Banque de France et la défense nationale (Revue politique et parlementaire, 1918); Kisch and Elkin: Central Banks, pp. 11-13.

より離脱しなければならない³⁾」と決議をしてゐるが如きも正にその適例である。

かくの如く中央銀行獨立性の原則なるものは、戦後益々その重要度を増しつゝありとはいふが、併しもし之を以てかくの如き主張の効果を百パーセントに期待して居るものであるとするならば、それは亦全然認識過度である。事實は雄辯に語る。若し一度各國中央銀行の定款その他の規定を一瞥するに於いては、かゝる主張は著しく緩和されてゐることが理解されるであらう。⁴⁾

然るにも拘らずなほ且つ私が以下特に中央銀行獨立性の原則を検討せんとする所以のものは何であるか？憶ふに資本主義制經濟に於ける限り、中央銀行なるものが直接或は間接に政府政黨又は特殊株主集團の牽制を受けんとするものなるに於いて、本質上之に對立するその獨立性を固持することの必然を信ずるからである。凡そ一國の中央銀行が、事實上政治その他の環境によるあらゆる干涉によつてその獨立性の犯され得る傾向がありとする場合、之に反する立場を通じてその任務特に一國の貨幣及び信用に關する統制によつて貨幣價值の安定を維持する任務を果すためにその必要とする活動の獨立性を確保せんとすることは極めて當然なことではなからうか？

かくてこの趣旨は、大戰後特に國際聯盟財政委員會の支配の下に設立又は改造された中央銀行に於いて、特に明文として規定されるに至つた。蓋し此の場合は國內の政治的勢力が著しく捨象され得るからである。例へば一九二六年十二月八日のギリシャ復興に關する國際聯盟財政委員會の報告の如き、論じて以て中央銀行の規定は一大原則によつて支配されるところであり、しかも

3) Resolution III. proposed by the Commission on Currency and Exchange and adopted by the Brussels Conference, 1920.
4) Kisch and Elkin: Central Banks, p. 18.

その原則の價值は經驗によつて定められたるものなるに於いて、それは貨幣價值安定の責任を中央發券銀行の満足なる機能に歸せしめんとする場合正に適用さるべきものであると云つてゐるが、この一大原則こそは亦正に中央銀行獨立性の原則を措いて他の如何なるものでもないのである。⁵⁾

今日各國中央銀行の定款其他法律上の規定を吟味するとき、それはたとひ表面上獨立性に關する積極的な規定はあるにしても、必ずや實質的には之を濫すものが少くない、従つて中央銀行が特に警戒を要する點亦必ずしも之を尠しとしない。故に中央銀行が定款其他法律上の規定によつて、政府政黨の關心に對し中央銀行獨立性の原則を保護することは其の本質上極めて重要であるのみでなく、更にまた一定の株主集團に對しても、その銀行に對する特殊な支配權を生ぜしめざるが如く管理されることは、極めて重要であるといはなければならない。

三 中央銀行獨立性の限界

既に述べたるが如く、中央銀行の有つ獨立性なるものは、其の從屬性と對立するものである。然らばその獨立性といひ從屬性といふは何を限界として論議されるのであるか？ 私の見るところによれば、此の獨立性といひ從屬性といふものは、決して絶對なるもの、換言すれば或は政府に對する完全に自由な獨立性なるものを意味し又は政府に對し全然從屬する從屬性なるものを意味するものではない。獨立と云ひ從屬といふも決してかくの如き純粹觀念ではない。その限界は

5) Cf. Kisch and Elkin: Central Banks, Chap. II. Relation between the State and the Central Bank, p. 17.

實に實踐に求められる。然らばその實踐に於ける獨立又は從屬の限界は何か？

今オプストに依れば中央銀行の型には凡そ次の四種が擧げられてゐる。⁶⁾

(イ) 純粹國家銀行 *Reine Staatsbank* の型——この種の最も著しい例はロシア帝國銀行、ブルガリア國立銀行並にスウェーデン帝國銀行等である。

(ロ) 純粹株式銀行 *Reine Aktienbank* の型——政府は會社資本に對して全然獨立してゐる。従つて中央銀行の管理に關しては勿論參加しない。この型に屬するものとしては英蘭銀行があげられる。

この二つの中央銀行の型の間になほ中間的な二つの型を考へることができる。

(ハ) この種の中央銀行に於いては、資本關係が個人または一般企業によつて應募される關係から、謂はゆる株式銀行の型に屬するものであるが、併しその管理に關しては政府はかなり高度に統制を加へる。多くの中央銀行はこの型に數へられる。この型に屬するものとしてはフランス銀行、ライヒスバンク、其他主要國の中央銀行をあげることができる。

(ニ) この型の中央銀行は、その資本構成は株式銀行型によるが、併しその資本の一部は國家又は國家機關によつて所有される。従つてまたその管理上に於いて前者より更に高度の國家統制が加へられる。スイス國立銀行の如き即ちこれに屬する。

此等の中央銀行の四種の型を通じて見る時中央銀行の獨立性の限界に於いて考へられるものは、

6) Obst, G.: Bankgeschäft. Bd. II. Bankpolitik, 1923, S. 285-286.

英蘭銀行の如き純粹株式銀行の對政府關係に於ける獨立性であり、その從屬性の限界に於いて考へられるものはスウェーデン帝國銀行の如き謂はゆる政府銀行の對政府關係に於ける從屬性である。この意味に於ける實踐的限界こそは事實また中央銀行獨立性の限界でもある。

四 中央銀行獨立性の内容

かくの如き意味に於ける中央銀行の獨立性については、從來その内容に於いて極めて正確性を缺いてゐた。戦後に於ける新動向たるこの獨立性の問題は自ら此の方面に關する内容を明確にしなければならぬ。

或は論じてかくの如き中央銀行の獨立性はその政府との關係に於いて、先づ第一に發券規定、第二に理事の任命、第三に銀行業務の規定を通じて考へられるといふ⁷⁾。併し私は今この見方に從はない。

私はこの問題を二つの方面から、即ち積極的の方面と消極的の方面とから見る。

然らばその内容は如何？私はまづ消極的の方面に就いて述べ、次に積極的の方面に移るであらう。

(A) 消極的方面より見たる獨立性の内容

獨立性の原則から見た消極的内容は、多くは中央銀行に對する外部的支配乃至影響に關するものである。従つて問題は多くは禁止又は制限に關聯してゐる。蓋し中央銀行に對する外部的支配

7) Radouant: op. cit. p. 15.

乃至影響に關する規定は、已に述べたるが如く、本來資本主義制社會に於ける中央銀行の成立過程よりして、必然的にその存在を豫期されるものだからである。そして此の外部的支配乃至影響の傾向は、特に戰後に於いて新なる動向として吾人の前に展開しつつあるものである。

かくて問題は其の消極的な外部的影響制限の内容は果して如何なるものであるか？と謂ふに歸する。然るに元來、各國には各國特有の生きたる經濟事情が存し、之を無視することができない。従つて同一規定を以て、あらゆる中央銀行の消極的制限の内容とすることは不可能である。即ちそこに中央銀行には成文法規と共に重んずべき傳統なるものゝ存在することを考へなければならぬ。

此等二者の中、特に傳統なるものゝ研究に至つては到底この如き一小試論の能くするところではない。殊に中央銀行にしてその成立後日尙淺きものは、傳統そのものゝ内容に關して既に幾多の疑義が存するのみならず、たとひ傳統なるものが明かに存在してゐるものにあつても、之を明確に把握するといふことは極めて困難である。ポミエが、「實際強權が銀行組織に對して有ち得る作用には多くの段階がある。此の段階こそは多くの發券銀行制度を構成するものである。各國がその銀行を設立する時は社會的環境に影響されるから、各銀行は社會的環境の影響下にたつに至り、従つて國の數と同じだけの銀行組織があると云へる^{s)}」と謂つてゐるのは至言である。一國に於ける政府、中央銀行、貨幣市場等々の間に存する不文律的關係を憶へ。そは直ちに此の問題

8) Pommier, L.: La Banque de France et l'Etat, p. 1.

を其の悲觀性に於いて、把握せしめるであらう。今私はこれ以上中央銀行の傳統なるものについて立入ることを避ける。

要するに中央銀行は其の發券特權を有する限り、結局、其の外部的影響より完全に獨立し得ない。従つて中央銀行の獨立性に關する消極的諸規定は、此の外部的影響に關する制限的又は禁止的諸規定でなければならぬ。

今 Ulrich⁹⁾によれば、彼は中央銀行の獨立性保障を以て政治的干涉に關する保障、特定團體又は階級の支配的作用に關する保障、中央銀行の獨立性より見て一定業務から生ずる危險に關する保障に分ち、其の第一の政治的干涉に關する保障をば更に中央銀行の法律的形式に關する保障並に中央銀行の組織統制に關する保障に分つてゐる。此の内容に立入つて詳細に紹介することは別の機會にゆづる。唯此等の種類の保障を通じても依然として其の主たる内容をなすものは専ら中央銀行の獨立性より見たる外部的影響又は支配に關する禁止及び制限であることは斷言してゐると思ふ。以下簡單に項目的にこの謂はゆる消極的な獨立性のための内容は如何なるものであるかを概言しやう。

其の第一は、中央銀行をして政治的干涉から離脱せしめんとするが如き規定である。そしてその法律上の形式に關する保障に於いてはまづ特許期間に關する制限があり、其他利益配當に關する制限、株主の國籍に關する制限等がある。更に組織統制に關しては或は兼業禁止、理事者國籍に

9) Ulrich, E.: Réorganisation des Banques Centrales en Europe. pp. 18-79.

關する制限、各種銀行機關の選任及び解任に關する制限が數へられやう。

其の第二は、ある種類の團體又は組織の利用するところとなるが如きことを避けんとすることを以て目的とする規定である。これに於いては投票權に對する制限、兼業禁止の外或は銀行機關の任命に關して一定の形式を定め、又は一定事項に關し政府の許可を必要とするが如きことが數へられる。

最後に其の第三は一定種類の業務の禁止規定である。それは中央銀行に對して自由なる活動を禁じたるものであるが、その目的は之により中央銀行をして信用の消費者たらしめず眞の信用の規整者たらしめんとするにある。從來の多岐に亘る營業は此の意味に於いて次第に整理され其の數が中央銀行の任務達成にかくべからざるものゝみに限定されんとするの傾向にある。

(B) 積極的方面より見たる獨立性の内容

中央銀行の獨立性なるものは單に消極的に外部的支配乃至影響より獨立してゐると考ふるだけでは其の意を竭したりとは謂ひ得ない。更に中央銀行は中央銀行として其の任務達成上善良なる意思に本づいて其の本來の意思を決定し尙又必要に應じては之を指導し得る手段方法が認められて居らなければならない。

中央銀行の獨立性なるものは、かくの如くしてそのあらゆる外部的干涉から又は其の本來の危機から保護されるのみならず、更にその任務遂行に對してはその必要とする意思並に行動の自由

を認めしめるが如き強力を有つてゐなければならぬ。

然らばかくの如き意味に於ける謂はゆる積極的獨立性の内容は如何？そは明かに中央銀行が其の任務遂行のため取扱ふ業務に依存してゐる。

勿論中央銀行業務のすべてが此點について同じ價值を有つものではない。例へば中央銀行が單なる媒介者として個人又は政府に對し、或は報酬を得又は無報酬を以て取扱ふ業務の如きは（現金、證券其他有價物の保存管理、第三者の勘定によつて國內及び外國に對し、證券、爲替又は信用手形の買入販賣並びに金銀地金の賣買等）原則上銀行資金の流通性に關して大なる直接的影響なきものであり、此の點よりして中央銀行獨立性の問題に關しても亦其の有つ重要度は低い。

今中央銀行の取扱業務にして特に銀行資金の流通性に關係し、従つてはまた其の獨立性に關係する者は、一方に於いては銀行が専ら自己勘定に於いて行ふ業務（例へば不動産の獲得、自己勘定による長期的有價證券投資商業取引の如き）政府貸上金（之に關しては別の機會に詳論した¹⁰⁾）及び政府貸上金以外の中央銀行諸貸付、割引の如きものであり、他方に於いては資本及び積立金業務、發券業務、預金業務の如きものである。此等の問題についても今は一々詳細に論議する餘裕はない。別の機會にゆづる。¹¹⁾

最後に注意すべきことは大戰後に於ける中央銀行活動の意味を理解するためには、等しくその取扱業務の問題も戰後に於ける新客觀狀勢に於いて把握されなければならないといふことである。この點より見て戰後に於ける中央銀行業務の特種性は如何？

10) 此の點については拙稿：中央銀行の獨立性より見たる政府貸上金に就いて（經濟論叢第三十五卷第三號）參照

11) 此等の問題を通じて發券業務が最も重要である、このことは Radouant 其他が繰り返し詳論してゐる、例へば Radouant: Les rapports de la Banque de France et de l'Etat, p. 11. et suiv.

この意味に於ける戦後の中心問題は、金融市場に於ける中央銀行の勢力が戦後著しく脅かされてゐるといふことである。例へば戦前に於いて中央銀行に期待されてゐた割引率を通ずる金融市場への支配力が著しく減退したといふが如きこれである。しかもこの事情は中央銀行以外の一般諸銀行が共同的戦線をもつ場合に於いて特に著しい。

要するに世界大戦後、中央銀行の活動を支配する割引率は、中央銀行が此の手段を有効ならしめるため、即ち一般金融市場に於ける割引率をば中央銀行のそれに接近せしめるため、又は少くもこれら二つの割引率を夫々平行せしめんとするため、一定の干渉手段を用ひざる限りに於いては、全然名目的なものにすぎなくなつた。このことは注目すべき點である。從來にあつてはこの割引率の政策こそは正に中央銀行の主要なる活動手段を支配するものであつたといひ得られるのであるが。

かくの如き中央銀行勢力減退の觀念こそは、恰も戦後に於ける各國中央銀行の規定作成上に於いて示されまたは示されつゝある傾向であり、又これよりして各國中央銀行政策は、この傾向を通じて一般銀行との共同的指導的原則を求めんとしてゐる。併し此等中央銀行とその他銀行との間に於ける政策上の調和は、今日に於いては單なる共同政策の高調によつては實現されない。その實現は強制を伴ふ共同政策によつての外希求され得ない。

かくして中央銀行は種々なる意味に於いてその統制力を失ひつゝある。従つて其の統制力が有

力に認識されるのは一般的に云へば中央銀行の貨幣市場に對する信用並に貨幣の供給が不充分なときに於いてのみである。こゝに於いて中央銀行の統制力が戦前の如く割引率を通じて行はれざるに當り、なほ且つ中央銀行をして一國金融機關の中心としてその統制力を把握せしめる方法の研究なるものこそは、恰も戦後に於ける中央銀行獨立性の積極的意義を成立せしめる契機として重要視されることになる。

かくの如き點より、國際聯盟財政委員會による金融復興案は一種の重要な指導傾向を示してゐる。今これによれば、その第一の點は中央銀行はなし得る限りその貸付資金を制限することである。尙又かくの如き政策は國庫、郵便、鐵道等の諸機關、及び中央銀行統制力の下にある特定機關の手に集中された巨額資金の進出によつて妨げられないやうにされなければいけない。此の意味が更に擴充されるに於いて、中央銀行の活動が有效なるためには、公の諸機關の有する資金も亦大部分中央銀行自身の手によつて所有されるか、又は中央銀行が統制を加へ得るか、或は少くも中央銀行政策によつて特定機關の手に集中されることの必要が考へられる。

第二の點は中央銀行に於ける商業銀行の一覽拂要求額に對する準備である。此の點に關する規定は既に米國準備銀行によつて採用されたところであるが、¹²⁾歐洲に於いては嘗て其の必要には論及されなかつた。然るに戦後、歐洲各國の中央銀行に於いては明かに支拂要求額の一定割合に相當する準備が問題となり、かくの如き準備に關する義務は嘗に預金者のためのみでなく、更に中

12) Burgess: The Reserve Banks and the Money Market. chap. III.

中央銀行の活動を強力ならしめるためにも其の必要があると認められるに至つた。此の準備率は一般に經驗によるものとされ、國により相違あるは勿論である。

要するに此の復興案の特色は最近に於ける中央銀行の目的とするところが貸付資金の制限なるものにあることは極めて明かであり、之に對しては已に觸れた通りである。このことの論ぜられるに至つたことは、其の反面に於いて中央銀行の古典的政策たる割引率政策の無能を示せる結果である。無論此の點に關しても一律に普遍的推理を加へることはできないが、とにかく中央銀行は最早單なる割引率の運用によつて金融市場を支配することはできないといふことについては異論はない。此の傾向に類似せるものとして從來主としてフランスに於いて用ひられた打歩政策の如きものも亦、完全に其の有効性を失ふに至つてゐる。

凡そ中央銀行業務に於けるかくの如き積極的手段の失敗は、當然新なる——尤も戦前ある種の中央銀行に於いては已に用ひられたものであるが——保護方法が講ぜられるに至つた。これ即ち「公開市場政策」といはれるものである。それが英國に於いて久しき以來示せる重要性については周知の通りである。が更に此の政策が一九二八年六月二十三日のフランス銀行と國防證券並びに公債償還金庫との間に成立したことは注目¹³⁾に値する。尤もこの方法は未だフランスに於いて實際には適用されてゐない。

要するにこの「公開市場政策」が戦後に於ける爲替準備又は爲替手持の多き國に於いて盛んに用

13) Ulrich ; op. cit. pp. 338-339.

ひられたことは勿論であるが、更に英佛の如き此點に於いて少なき國に於いても尙且つこの公開市場政策に依り又は依らんとしてゐることは、中央銀行獨立性を維持する積極的方面の現象として注目すべきものである。此の場合に於いても各國に於ける其の實際には夫々個性がある。しかし今その問題には立入らない。謂はんとするところは唯其の重要性のみである。

五 中央銀行に對する政府監督について

私は以上、戦後に於ける中央銀行の新傾向は、其の獨立性の擴大強化にあること並びに之がための積極的並に消極的保障の内容は如何なるものであるか？を述べた。併し中央銀行の獨立性については尙ほ殘された問題がある。これこゝにのべんとする中央銀行に對する政府の監督權である。

素より此の獨立性なるものゝ意味するところは中央銀行が凡ゆる國家權力の統制から完全に離脱しなければならぬといふのではない。この點は己にのべた通りである。獨立性とは中央銀行をして其の任務遂行の爲め、法律規定又は慣習によつて認められたる限りに於ける權利の自由なる行使を意味する。或は論じて「若し中央銀行の統制がその意思決定に關して完全な自由を有ち得ないならば、中央銀行の權力は破壊せられ之に依つて最も遺憾とすべき狀況が將來されるであらう¹⁴⁾」と謂つてゐるのも全く此の意味に解すべきである。然るにこれがため多くの積極的及び消極的保障は規定されるにかゝはらず、其の正當なる效果への期待はなほ實際に於いて困難である。こゝに中央銀行に對する政府監督の問題がおこる。

14) Ulrich; op. cit. p. 87.

かくして中央銀行の統制に關して其の活動の自由をばある限界内に制限し監督することはその程度に於いて正に中央銀行の獨立性を更に一層明確にするため缺くべからざることになる。

中央銀行に對する政府の干渉がまづその發券特權によるものとせば、其の限りに於いて中央銀行は政府の監督を受けなければならないことは當然である。¹⁵⁾ 唯併し殘された難點は監督の如何に非ずして其の監督の方法である。此の意味に於いて注意すべきものは監督官設置の問題である。¹⁶⁾

政府が中央銀行の活動に對し監督官の設置によつて加へる監督は、中央銀行の獨立性保障の見地から見て極めて大なる關心を拂ふべきである。蓋し政府監督は銀行の取扱業務に對し、事實連續的に政府の中央銀行への干渉の機會を與へるものだからである。此の制度は大戦後に於いて制定されたものであるが、已にたとへばベルギー國立銀行及び國際聯盟財政委員會によつて設立された各國中央銀行の如きに於いて採用されてゐる。

この監督官について問題となるものはその監督事項に對する否定權(Veto)とこの否定權の行使またはその他の場合に於ける政府と中央銀行との間に於ける問題解決の仲裁裁判これである。¹⁷⁾

この種の問題に對する仲裁裁判なるものゝ制定は極めて注意すべきものであるが、問題はむしろその實際に存する。監督官がその否定權を行使し得るは定款または法律に違反せりと認めたる場合に於いてのみである。従つて問題は法律の性質を帶び、多くの場合法律の解釋を目的とする。監督官は勿論銀行の財政狀態に關係し得ない。蓋しこの點は中央銀行獨立性より見て本質的なもの

15) Radouant: op. cit. p. 11.

16) Kisch and Elkin: op. cit. pp. 32-35.; Ulrich. op. cit. pp. 86-92.

17) ベルギー銀行規定第74條—第76條; オオストリヤ銀行規定第45條、第46條、第47條; ブルガリヤ國立銀行規定第68條—第70條; ハンガリヤ國立銀行規定第45條、第46條、第47條; ギリシヤ銀行規定第47條、第48條; エストニア銀行規定第45條、第46條

のだからである。監督官に對しては銀行の各種業務機關會議に於いて投票權を認めず、更に最近の定款例へばギリシャ銀行定款の如きに至つては帳簿上の検査の權利をも認めない。またこの監督官の任命はギリシャ並にエストニアの規定に於いては義務的ではない。大藏大臣がその必要と認めるときに應じてその一名を任命することができるとされてゐる。なほ又ギリシャ銀行の規定によればハンガリヤ國立銀行の規定と異り「政府委員(監督官)は政府よりその俸給を受く」と規定されてゐる。

仲裁裁判の組織によつて銀行は監督官の權限濫用を防ぎ且つ銀行の管理と統制との混同を防ぐ。この方法は今日の狀態に於いて合理的であるとされてゐる。そはただに全體のため即ち銀行株主並に取引者の爲めに嚴密なる保障となるのみでなく、更に中央銀行のためにも良好なる結果を齎らし従つてその獨立性を有力ならしめるものである。

六 結 言

以上に於いて私は最近に於ける中央銀行の獨立性なるものゝ要領を述べた。凡そ中央銀行がその國民經濟に於いて有つ地位が正にその國民經濟全體の利害と一致すべきものであることは容易に考へられるところであり、この意味からすれば政府がその國民全體の利益を完全にはかり得るとする限り、中央銀行はその從屬性に於いて満足すべきであり、あへてその獨立性の原則を主張するの必要を認めない。

然るにこのことは資本主義制社會に於ける限り、謂ふべくして行はれ難い。特に中央銀行なるものも亦一の企業としてたち、その限りに於いて一の人格としてその利益の追及を計ることが原則として妨げられざるかぎり、更にまた政府又はその他特定團體の利益なるものが國民經濟全體より見てその利益と認めるものと必ずしも一致し得ざるかぎり、中央銀行獨立性の原則の意義は漸く重要とならざるを得ない。

かくて今日中央銀行は、政府との間にその獨立性の問題を中心として深き交渉を有つて居り、また各國に於けるこの意味の問題解決の形式は多種多様である。併しながら若し世界大戰についてその前、中、後の各期間に亘り中央銀行に於ける此の獨立性の問題の發展に注目するときは、即ち世界大戰前に於いては政府と中央銀行との關係は獨立より干涉へ次第に深められてゆく傾向が認められ、かくて大戰中に於いて中央銀行の獨立性は殆んど或は全く失はれて兩者の關係はその獨立性の反面たる從屬性に於いてのみ考へられたのである。¹⁸⁾然るに大戰後に於いては明かに從屬性は獨立性によつて破棄せられ、茲に再び獨立性はより高次の關係に於いて正統學派的色彩を帶び、國家と中央銀行との間には明かなる對立を示すに至つた。

私はかくの如き關係に於いて國家と中央銀行との關係を通觀し、これを以て最近歐洲各國中央諸銀行に於ける支配的傾向であることを斷言する。もしその間に於ける細部の規定其他屢次論及を他の機會にゆづつた諸點に關しては別稿を期するものであること勿論である。

18) Kisch and Elkin: .op. cit. p. 17.